

経済・金融
フラッシュユーロ圏消費者物価(25年6月)
ー総合指数の前年比2%水準が継続

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:総合指数は2%ちょうどに、コア指数は2.3%で横ばい

7月1日、欧州委員会統計局(Eurostat)は6月のユーロ圏のH I C P (Harmonized Indices of Consumer Prices:EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は2.0%、市場予想¹(2.0%)と一致、前月(1.9%)から上昇した(図表1)
- ・前月比は0.3%、予想(0.3%)と一致、前月(▲0.0%)から上昇した

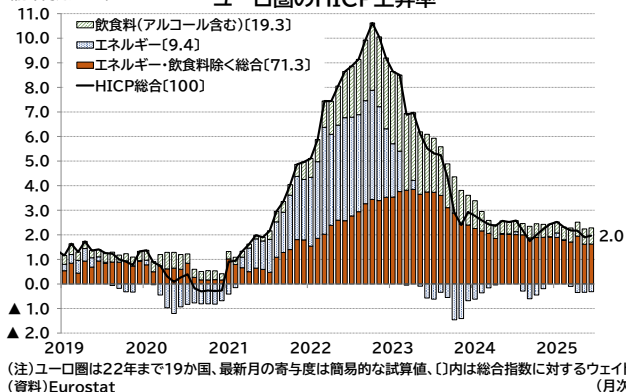
【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は2.3%、予想(2.3%)と一致、前月(2.3%)と同じだった(図表2)
- ・前月比は0.4%、前月(▲0.0%)から上昇した

(図表1)

(前年同月比、%)

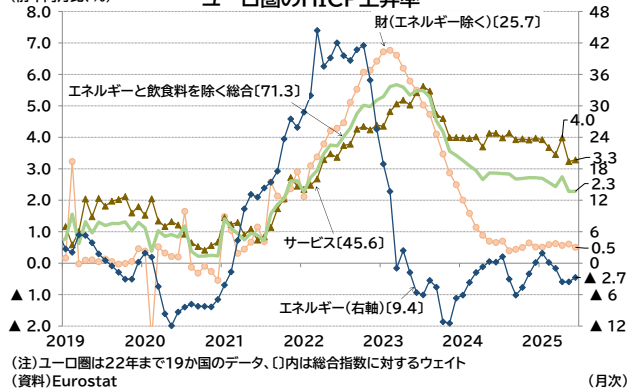
ユーロ圏のHICP上昇率



(図表2)

(前年同月比、%)

ユーロ圏のHICP上昇率



2. 結果の詳細:総じて5月と同様の状況

6月のH I C P上昇率³(前年同月比)は全体で2.0%となり、5月(1.9%)からやや上昇、E C Bの2%物価目標と一致した。「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」は2.3%と5月(2.3%)から横ばい推移となった。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料(アルコール含む)」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

² 日本の消費者物価指数のコアコアC P I、米国の消費者物価指数のコアC P Iに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアC P Iや米国のコアC P Iとは若干定義が異なる。

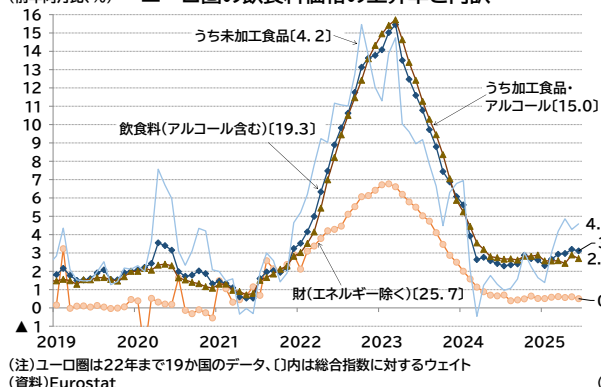
³ 23年からはユーロ圏20か国のデータ、22年までは19か国のデータ(以降も特に断りがない限り同様)。

（飲食料も除く）」が4月0.6%→5月0.6%→6月0.5%、「サービス」（エネルギーを除く）が4月4.0%→5月3.2%→6月3.3%となり、いずれも5月とほぼ同水準の伸び率となった。前年同月比寄与度は、「財」が0.12%ポイント程度、「サービス」が1.43%ポイント程度と見られる。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で4月▲3.6%→5月▲3.6%→6月▲2.7%となり、マイナスが続いているがマイナス幅が縮小した。エネルギーの前年同月比寄与度は▲0.31%ポイント程度（5月は▲0.34%ポイント）と見られる（前掲図表2）。

（図表3）

ユーロ圏の飲食料価格の上昇率と内訳



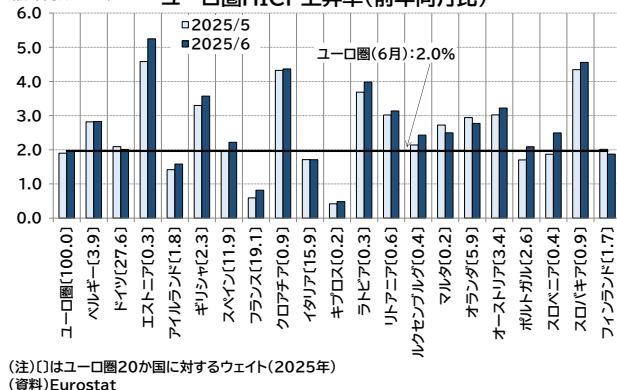
「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で3.1%（5月3.2%）とやや低下（図表3）、内訳を見ると、飲食料のうち加工食品の伸び率は2.7%（5月2.9%）に低下したが、未加工食品は4.6%（5月4.3%）と上昇した。飲食料の前年同月比寄与度は0.66%ポイント程度（5月は0.62%ポイント）と見られる。

総じて6月はほぼ5月と同様の状況が継続したと言える。

物価上昇の勢いをECBが公表する季節調整済系列で確認すると（図表4）、3か月移動平均後の3か月前比年率で総合指数が0.8%（5月1.5%）、コアが2.7%（5月2.7%）、エネルギーを除く財が0.2%（5月0.3%）、サービスが4.1%（5月4.0%）、飲食料が2.8%（5月2.8%）となった。サービスインフレの物価上昇の勢いがやや高めではあるものの、6月は5月に続き2か月連続で総合指数の物価上昇の勢いが2%を下回った。

（図表5）

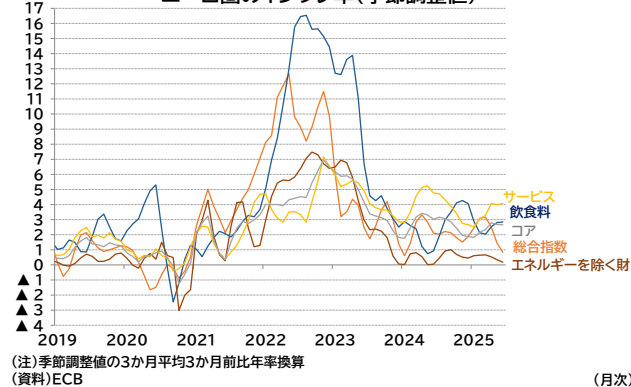
ユーロ圏HICP上昇率(前年同月比)



国別のHICP上昇率は、前年同月比で20か国中、上昇したのは15か国、残りの5か国は低下した（図表5）。また、物価目標の2%以下となったのは5か国だった。なお、前月比では20か国中18か国がプラス、1か国がマイナスの伸び率、1か国が横ばいとなった（図表6）。

（図表4）

ユーロ圏のインフレ率(季節調整値)



（図表6）

ユーロ圏HICP上昇率(前月比)

